



令和2年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課防疫対策室
農産安全管理課農薬対策室

令和3年の病害虫防除シーズンに向けて、令和2年の天候経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、令和2年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（警報、注意報、特殊報）について、表-2に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

1 天候経過の状況（気象庁報道発表資料を参照）

1 令和元年冬（令和元年12月～令和2年2月）の特徴

（1）冬型の気圧配置が続かず、全国的に寒気の流入が弱かったため高温となる時期が多く、東日本以西の冬の気温はかなり高かった。特に、東・西日本では最も高い記録を更新した（統計開始は1946/47年冬）。

（2）冬型の気圧配置が続かず、寒気の影響を受けにくかったため、全国的に冬の降雪量はかなり少なく、北・東日本日本海側では最も少ない記録を更新した（統計開始は1961/62年冬）。

（3）低気圧や前線の影響を受けやすかったため、東日本太平洋側で日照時間がかなり少なく、西日本日本海側で降水量がかなり多かった。

2 令和2年春（3～5月）の特徴

（1）気温は、4月が大陸からの寒気の影響を受けたことから全国的に低かったが、3月と5月は、南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。

（2）日照時間は、3～4月にかけて、西日本を中心に移動性高気圧に覆われる日が多かったことから、東西日本で多くなり、特に東日本太平洋側と西日本でかなり多くなった。

（3）降水量は、北日本で発達しながら通過した低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすかったため、多

かった。また、沖縄・奄美では、3月と5月に前線や暖かく湿った空気の影響を受け、多かったが、4月は湿った空気の影響を受けにくかったのでかなり少なかった。

3 令和2年夏（6～8月）の特徴

（1）7月に活発な梅雨前線の影響を受けたことから、東・西日本を中心に各地で長期間にわたって大雨となった（「令和2年7月豪雨」）。このため、東・西日本の夏の降水量はかなり多かった。沖縄・奄美では、期間を通して前線や湿った空気の影響を受けたため、降水量はかなり多かった。

（2）暖かい空気に覆われる時期が多かったため、全国的に夏の気温は高かった。特に、8月に太平洋高気圧に覆われて厳しい暑さが続いた東日本と、期間を通して暖かい空気に覆われた沖縄・奄美ではかなり高かった。

（3）7月に梅雨前線や湿った空気の影響を受けた東日本日本海側と、期間を通して前線や湿った空気の影響を受けた沖縄・奄美では、夏の日照時間は少なかった。

4 令和2年秋（9～10月）の特徴

（1）気温については、9月は南から暖かい空気が流入したため、北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。10月も暖かい空気が流れ込んだため、気温は北日本で高かった。

（2）降水量については、9月は台風や前線、湿った空気の影響を受けたことから、月降水量が西日本日本海側で多かった。9月上旬には台風が相次いで沖縄・奄美を通過し、東シナ海を北上したため、西日本と沖縄・奄美を中心に大雨や大荒れとなった所があった。10月は中旬を中心に高気圧に覆われた東日本日本海側では、かなり少なかった。一方、東・西日本太平洋側では、台風第14号により活発化した前線の影響等で多かった。

（3）日照時間については、9月は西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。10月は上旬を中心に低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすかったため、北日本と東日本太平洋側で少なかった。一方、10月上旬は沖縄・奄美が、10月下旬は西日本が高気圧に覆われやすかったため、それぞれ日照時間は多かった。

Occurrence of Pests and Diseases and their Control in 2020 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：令和2年，病害虫，発生動向，農薬，出荷状況）